

令和4年度第1回 倉敷市地域福祉基金運営委員会

日時 令和4年7月29日(金) 14時00分～14時38分

会場 倉敷市役所本庁舎9階 902会議室

出席者

委員 植田委員(会長)、木村委員(監事)、小松原委員、田野委員、中桐委員(副会長)、中野委員、新垣委員、平岡委員、山崎委員(監事)

事務局

保健福祉局) 森参事

保健福祉推進課) 佐藤課長代理、白神主任、中山主任、高橋主事、山砥主事、渡邊主事

欠席者

委員 石井委員

傍聴者 なし

議事内容(要旨)

1 開会

委員9名の出席により、倉敷市地域福祉基金運営委員会規約第9条第2項の規定に基づき、会議が成立していることを確認し、開会を宣言した。

2 議事 (発言者:◎会長 ○委員 ■事務局)

(1) 令和3年度事業報告、決算報告及び監査報告について

■ 資料に従い説明を行った。

<監査報告>

○ 基金の歳入歳出について監査した結果、歳入歳出各科目の収支に関する経理は、基金の目的に沿って適切に処理され、関係帳簿も正確であったことを報告します。

承認

(2) 令和4年度事業計画及び予算(案)

■ 資料に従い説明を行った。

◎ 委託事業に関しては、2件とも新型コロナウイルス感染症の影響で代替事業を実施するということが、このような予算になっている。一方の助成事業に関しては、新規団体も含めて、感染対策をしながら地域での活動を続けられるとのこと。

承認

(3) 各申請団体の審査

■ 資料に従い説明を行った。

○ コロナ渦というところで、食品配布や生きがいづくり、居場所づくりを皆さんが目指しているように思った。また、活動を通じて地域に暮らしている高齢者や子どもたちの様子もよくわかるため、子どもたちが夏休みになって食品を取りに来ないなどの点に早く気が付いて、それを民生委員などに繋げるという役割を担っていただいているというところでは、このような団体が増えてきている

というのは良い傾向だと思う。コロナは良くないが、コロナだからこそのようなフードパントリーやフードシェアの取り組みが出来ているのではないかと感じた。このようなボランティアは、必要としている家庭にとっては大変ありがたい存在ではないかと思った。

- ◎ 今言われたように、やはりコロナ渦だからこそ皆さんと集まったり繋がったりすることが難しい側面も大きいのではないかと思った。また、フードロスとの関係は、SDGsの活動として企業や地域の中でも活発になってきているため、そのようなことも勉強しながら、地域の草の根の活動も進められているのではないかと推察している。

承認

- 市民の皆様の貴重な御寄附がより有効に活用されるよう、事務局として努めていく。

3 閉会

以上により、議事を終了

会議録の内容に相違ないことを確認し、ここに署名する。

倉敷市地域福祉基金運営委員会

会 長 植田 嘉好子 

委 員 山崎 要 